

京都府の農村コミュニティ の支援状況

○命の里

○コミュニティ・コンビニ

● 京都方式農村地域活性化の道筋

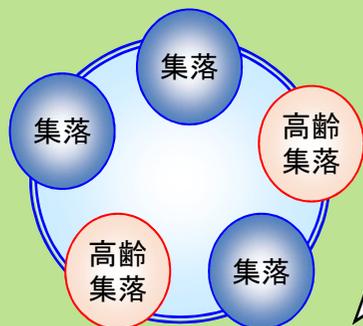
地域再生段階

施策1

◇地域の土台づくり

- ・地域の絆の再生
- ・組織育成、基盤整備

★地域連携組織(49地区)が設立



過疎高齢化集落を含む地域連携組織で、話し合いが進み、過疎化高齢化への危機感と対応策が明らかになった。

施策2

◇地域の挑戦・課題を解決

- ・人材支援
- ・地域の課題解決実践支援

◆行政職員(里の仕事人)、民間人材(里の仕掛人)による人的支援

◆地域の将来を担う地域人材の育成支援

「里の公共員」(半公半民)を配置(H26~)

◆地域によるオーダーメイド取り組みを支援

- ・組織の弱体化により、芽生えた活動の連携・発展ができていない。
- ・新しい人材が取り組める体制になっていない。

中山間地域直接支払(H12~)

多面的機能支払(H19~)

「命の里」事業実施地区

市町村	命の里	集落数	多面・中山間組織等が同一エリアで取り組む地域
宮津市	世屋	5	
	日ヶ谷	5	
	上宮津	14	
	日置	2	
	養老	9	
	由良	6	
京丹後市	宇川	14	
	五十河	5	
	神野	5	
	野間	10	◎
	佐濃	17	
	大宮南	5	
	三重・森本	2	
	久美浜二区	8	
	海部	11	
与謝野町	滝・金屋	3	◎
伊根町	本庄・筒川	12	
	朝妻	8	
	伊根	8	
綾部市	水源の里	(10)	
	山家	12	
	於与岐	4	
	志賀郷	10	
	中上林	25	
	奥上林	15	
福知山市	雲原・金山	8	
	下豊富	20	
	畑	7	
	川合	6	○下川合集落のみ連携なし
舞鶴市	岡田中	8	
	白滝・岸谷	2	
亀岡市	旭	4	
南丹市	摩気	8	
	知井	11	
	鶴ヶ岡	18	
	平屋	10	
	宮島	9	
	大野	9	
	世木	4	
	川辺	6	
京丹波町	広野・大簾	2	◎
	和知北部	5	
	質美	7	◎
	竹野	9	
	上和知中部	6	
和束町	湯船	(5)	
	和束	11	
京都市	宕陰	2	
	京都市北部	5	

49地区392集落

※集落数括弧書きは他地区との重複集落を含む内数

「命の里」事業の成果と課題

成果

●集落連携組織の設立（49組織）

- ・多くの地域で組織が立ち上がる

要因

- 「命の里」事業の事業要件
- 「里の仕事人」（府職員）による伴走支援

●課題解決に向けた取組（多くの地域で実践）

①新たな所得機会の確保

- ・特産品づくり（新品目栽培や加工品開発）
例：ウリの粕漬け（京丹後市神野地区） とち餅（綾部市奥上林）
サバ寿司（南丹市鶴ヶ岡） ワサビ（京都市宏陰）
- ・直売市（朝市・イベントなど）の開催
（京丹後市宇川 綾部市山家 南丹市世木など）
- ・農家民宿の開設（京丹後市大宮南 舞鶴市岡田中 京都市北部など）

②高齢者の生活支援

- ・移送サービス（宮津市日ヶ谷 京丹後市野間 綾部市山家 南丹市鶴ヶ岡など）
- ・配食サービス（京丹後市神野 京丹後市宇川など）

③移住・定住促進

- ・49地区中30地区が移住促進特別区域に指定
- ・田舎暮らし体験ツアー等の実施（舞鶴市岡田中 福知山市川合など）

④都市農村交流

- ・市民農園の開設（福知山市下豊富など）
- ・婚活イベントの実施（京丹後市佐濃など）

命の里で取組が進められた成果	取り組んだ地区数
新たな特産品開発等による所得機会確保	33
高齢者移送サービス等	3
高齢者の見守りやサロン開設	7
子どもの居場所づくり	3
都市農村交流	20
移住定住促進	30
小規模多機能自治組織への検討	3

要因

- 課題と解決策の話し合いと実践
- 幅広い課題に対応する支援施策の充実
- 「里の仕掛人」「里の公共員」などの人的支援
- 「里の仕事人」（府職員）による伴走支援

課題

●課題解決取組が集落内で完結しているため、地域内への横の広がりが欠けている

- ・農家民宿を開設したものの、地域との連携が取れていない
- ・直売所での販売物が1集落の物のみであり、品揃えが悪い

要因

- 課題解決取組が集落単位での活動となっている
- 地域資源や特性を活かした商品開発に限界がある

●取組どおしをつなげる工夫が少なく、地域内で2つ以上の取組みを結びつけることができていない（実施できていない例）

- ・エコツアーに加工品作成体験を組み入れる
- ・農家民宿で地元の特産品を提供など

要因

- 課題解決取組を主体的に行う者が異なっている
- 組織において、課題解決取組のコントロールやコーディネートが出来ておらず、活動がマンネリ化している
- 目的を達成しても次の段階へ進んでいない

●活動が頭打ちとなっている

- ・加工グループに新たな参加者が加入しないなど、人材不足による活動の取りやめの恐れがある

要因

- 地域内全体で人口減少、高齢化が進んだことによるマンパワー不足
- 後継者不在により、地域内の次のリーダーの確保及び育成ができていない
- 販路の拡大が出来ていない

●49地域中6地域では地域運営組織としては活動が機能していない

要因

- 事業終了後や目的達成後は地域運営組織としての活動が乏しくなっている



- トータルのマネジメントが必要
- 地域内の他集落への拡大、関係者の増加が必要
- 不足する人材（マンパワー・後継者）の外部からの確保を検討
- ICT等の新技術導入による地域活動の簡略化

地域運営組織の機能を強化



南丹市美山町鶴ヶ岡地区の状況

「命の里」地区の取組状況

鶴ヶ岡(18集落)で連携した体制の構築
(鶴ヶ岡振興会)

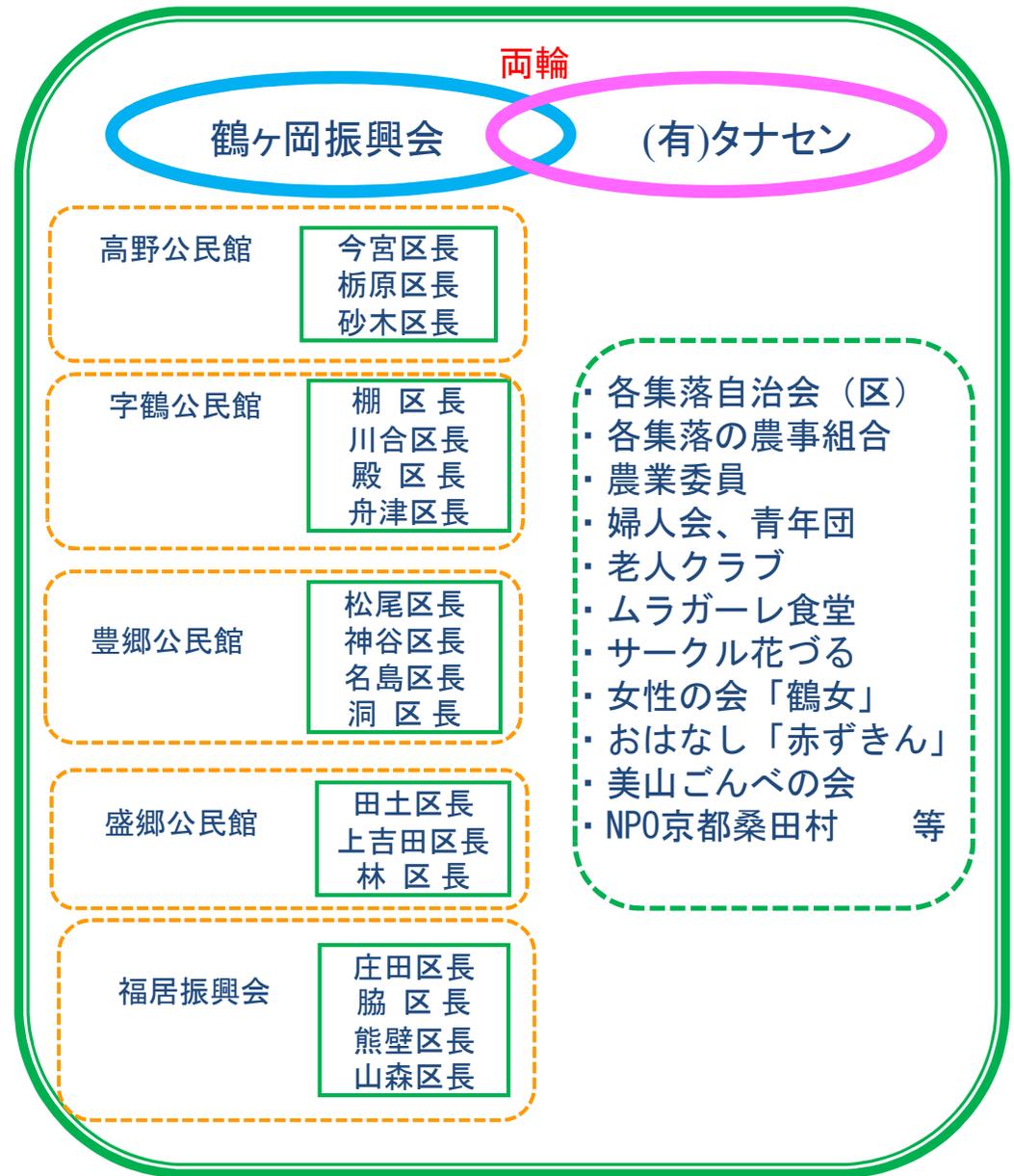
高齢者移送サービス、教育民泊旅行受入、
若者を中心にムラガーレ食堂(月1回)の開設
などを実施し、移住者が増加(5年間で33名)

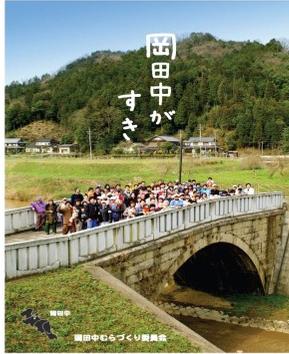
しかし

- ◆人口:807人(H22年)→692人(H27年)
(85.7%)
- ◆高齢化率41.8%(H22年)→44.7%(H27年)
- ◆地区内関係組織は多数

〈地域の声〉

- ・共同体としての機能が顕著に低下
- ・農地や森林の荒廃が目立ち始め
- ・鹿・猪等、獣害が過疎化に追い討ち
- ・伝統行事の継続も困難





舞鶴市岡田中地区の状況

「命の里」地区の取組状況

旧岡田中村(8集落)で連携した体制の構築
(岡田中むらづくり委員会)

産業振興・都市農村交流・移住定住促進などを
実施し、移住者が増加(5年間で20名)

小規模多機能自治の検討

1割強の72名が移住者

しかし

◆人口:614人(H22年)→570人(H27年)
(92.8%)。

◆高齢化率45.8%(H22年)→47.7%(H27年)
(生産年齢230人)。

◆地域の組織数(約24団体、役職数233以上)

〈里の公共員、地域の声〉

- ・農業の経営環境が悪い。
(有害鳥獣、除雪、草刈り、山林管理等々...)
- ・地域の役、行事が負担になっている。
- ・岡田中小学校(閉校)の利活用ができていない。



● 京都方式農村地域活性化の道筋

地域再生段階

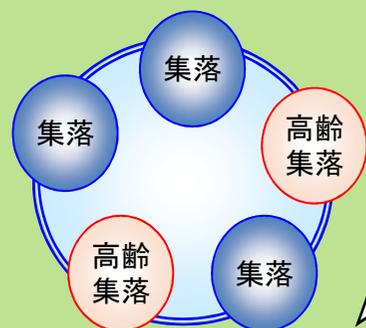
持続的発展

施策1

◇地域の土台づくり

- ・地域の絆の再生
- ・組織育成、基盤整備

★地域連携組織(49地区)が設立



過疎高齢化集落を含む地域連携組織で、話し合いが進み、過疎化高齢化への危機感と対応策が明らかになった。

施策2

◇地域の挑戦・課題を解決

- ・人材支援
- ・地域の課題解決実践支援

◆行政職員(里の仕事人)、民間人材(里の仕掛人)による人的支援

◆地域の将来を担う地域人材の育成支援

「里の公共員」(半公半民)を配置(H26~)

◆地域によるオーダーメイド取り組みを支援

- ・組織の弱体化により、芽生えた活動の連携・発展ができていない。
- ・新しい人材が取り組める体制になっていない。

施策3

◇マネジメント機能強化

- ・広域的かつ多機能な組織での「人」「組織」の充実が必要
- ・地域ぐるみの活性化の取組を強力に推進

組織体制のイメージ(案)

役割

- ・農業生産組織
- ・特産品づくり・販売
- ・都市農村交流 など

役割

- 健康づくり
- 生活支援
- 定住サポート
- 鳥獣対策
- 地域資源管理

コミュニティ・コンビニと連携

中山間地域直接支払(H12~)

多面的機能支払(H19~)

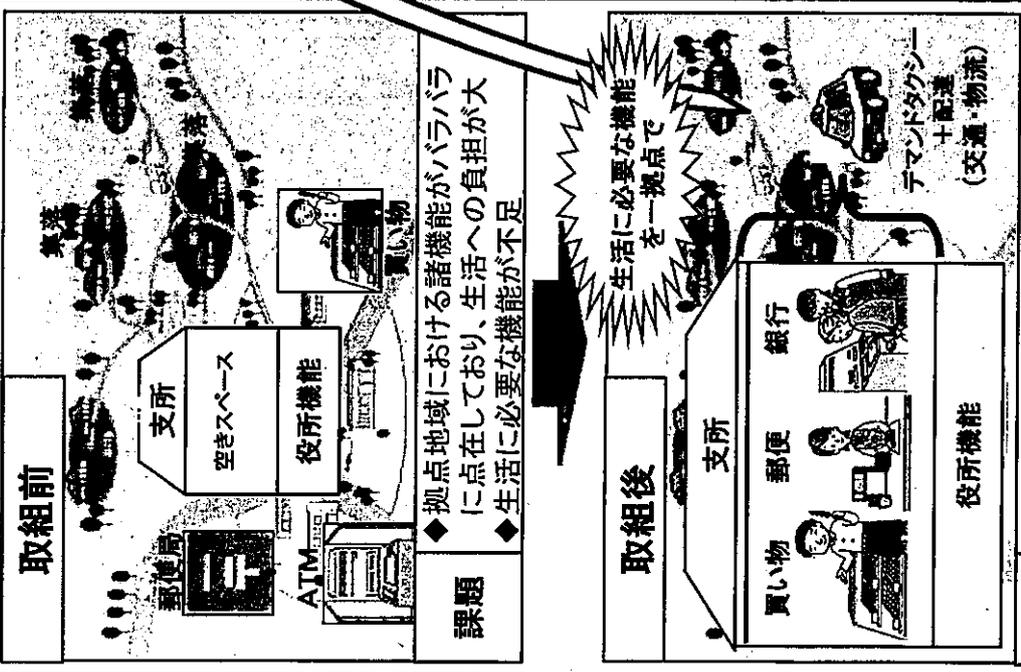
平成29年度当初予算案主要事項説明

総務部
政策企画部

事業名	「コミュニティ・コンビニ」整備事業費			
予算額	38,000千円	新規・継続の別	継続	
事業内容 〔目的 対象 方法等〕	1 概要 過疎・高齢化が進む地域のくらしを支える「コミュニティ・コンビニ」(小さな拠点の京都モデル)を構築			
	2 事業内容			
	(1) 整備支援		30,000千円【自治振興課】	
	事業内容	市町村の拠点整備への補助		
	補助対象	拠点改修経費		
	補助率	1/2以内		
	(2) 運営サポート		6,080千円【計画推進課】	
	事業内容	拠点において地域と企業が連携して行う持続可能なサービス(買物サービスや地域交通サービス等)の構築と運営		
	手法	公共員を配置 (4人)	身分	非常勤府職員 報酬 11万円/月
	(3) 民間サービスの導入		1,920千円【計画推進課】	
事業内容	金融、買物、交通・物流等に係る民間サービスの導入に必要なハード・ソフト経費への補助等			
補助先	市町村 (市町村から参画企業へ補助)			
補助率	府 1/3 事業者 2/3			
実施地域(4地域) 福知山市(三和)、南丹市(胡麻)、木津川市(加茂)、南山城村				
担当課・担当名	自治振興課 地域支援担当 計画推進課 計画・地域担当	課・担当電話番号	075-414-4447 075-414-4538	

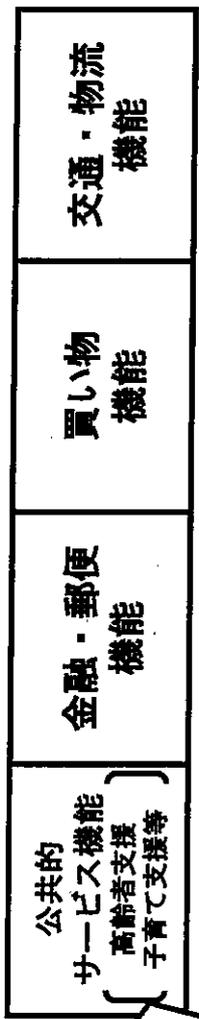
コミュニティ・コンビニ・コンビニ整備事業 ～京都版小さな拠点「コミュニティ・コンビニ」を創設～

コミュニティ・コンビニ の全体イメージ図



拠点の概要

予算計上額 38,000千円 (※85,000)



市町村への支援 人への支援 民間への支援

整備支援 (※67,000)

○4拠点(H27-28指定)で、小さな拠点の京都モデルづくりを目指す

- ・福知山市(三和地域)
- ・南丹市(胡麻地域)
- ・木津川市(加茂地域)
- ・南山城村

〔 拠点改修経費 補助率1/2 上限20,000千円 〕

民間の参画 (※10,000)

○買い物・物流・交通等の民間企業の拠点参画を支援

- ⇒市町村から参画企業へ補助(地域と企業の協定等が必須)
- (ハード・ソフト経費、補助率1/3)
- 拠点への新サービス導入に向けて民間企業と情報交換・連携

運営サポート (※8,000)

6,080千円

○拠点において地域と企業が連携して行う持続可能なサービス(買い物サービスや地域交通サービス等)の構築と運営 [非常勤府職員(公共員)を配置(月額11万円)]

横展開推進

今後、モデル事業の成果を府内市町村に幅広く横展開
(成果のとりまとめ、共有、事業化支援)
→まちの仕事人、未来づくり交付金など既存事業による支援
国補助金等の活用の助言

「コミュニティ・コンビニ」と「農村コミュニティ活動組織(命の里)」の違い

	コミュニティコンビニ (小さな拠点京都モデル)	農村コミュニティ活動組織(命の里)
エリア	平成の合併前市町村程度 (例、福知山市三和町)	住民の日常生活圏で、住民に馴染みのある旧村・小学校区単位 (例、三和町川合:旧川合小校区(6集落))
目的	公共サービス等生活に必要な機能の拠点化のモデルを創設	地域コミュニティの衰退により、地場産業の衰退や高齢者の見守りなどの課題に対し、地域活性化活動(子育て・高齢者・都市農村交流ビジネスなど)を推進
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・バス運行ルートの見直し ・福知山公立大学等と連携したフィールドワーク 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者見守りサービス ・地域特産品づくり ・移住促進 ・子育て支援
人材支援	コミュニティ・コンビニ公共員	里の仕事人 里の公共員
支援の特徴	拠点へのワンストップサービス 生活交通の構築 子育て支援	人口減や少子化に地域外から人を呼び込む取組やサロン活動などを支援
その他	拠点周辺に信金、農協、スーパー、コンビニ等が立地	

